

# 第23回全国選抜高校テニス大会

## オーストラリア遠征

### 報告集



全国高等学校体育連盟テニス部

2001年5月8日～5月14日

# SCHEDULE

月 日	都 市 名	現地時間	日 程
5 / 8 (火)	成田空港	18:30 21:40	結団式 JAL761 便 空路ブリスベンへ
5 / 9 (水)	ブリスベン ゴールドコースト	07:20	ゴールドコーストへ移動 昼食後、練習・練習試合 <アランデルヒルズカントリー泊>
5 / 10 (木)	ゴールドコースト	10:00  18:00	開会セレモニー 公式試合  オーストラリアテニス協会・選手とのパーティー <アランデルヒルズカントリー泊>
5 / 11 (金)	ゴールドコースト	9:30  18:00	公式試合  夕食 <アランデルヒルズカントリー泊>
5 / 12 (土)	ゴールドコースト	9:30  12:30  16:10 17:40	練習試合  閉会セレモニー  カンタス航空 541 便 空路シドニーへ シドニー空港着 <アビリオンホテル泊>
5 / 13 (日)	シドニー	9:00	シドニー市内研修  <アビリオンホテル泊>
5 / 14 (月)	シドニー 成田空港	9:35 18:10	JAL772 便 空路成田空港へ 成田空港着 解団式



# MEMBER

団 長	古賀 通生 (全国高等学校体育連盟テニス部部长)	
副 団 長	宮浦 典善 (全国高等学校体育連盟テニス部副部长)	
	馬瀬 隆彦 (全国高等学校体育連盟テニス部副部长)	
総 務	諸角 秀雄 (読売新聞社西部本社)	
男子監督	本田 健児 (柳川高等学校テニス部監督)	
女子監督	沢野 唯志 (全国高等学校体育連盟テニス部常任委員)	
男 子 選 手		
安田 智昭 (明石城西高等学校)	山形 生夏 (仁愛女子高等学校)	
添田 豪 (藤沢翔陵高等学校)	小林 佳子 (柳川高等学校)	
權 東洙 (柳川高等学校)	尾崎 真衣加 (夙川学院高等学校)	
酒井 祐樹 (足利工業大学付属高等学校)	伊藤 和沙 (園田学園高等学校)	
藪中 伸也 (清風高等学校)	宮本 絵梨香 (夙川学院高等学校)	
鳥屋 太希 (県立岐阜商業高等学校)	柚木崎 みなみ (柳川高等学校)	
緒方 宏樹 (九州国際大付属高等学校)	竹本 みのり (樟蔭東高等学校)	
清水 友弘 (松商学園高等学校)	米山 咲 (松商学園高等学校)	
渡辺 健 (柳川高等学校)		
添 乗 員	河村 満 ・ 上田 真司 (日本旅行)	



男子チーム

サンクチュアリーコープテニスコートにて



女子チーム

ホープアイランドテニスコートにて



## 「夏に向けての自分のテニス」

男子監督 本田 健児

私自身、4年ぶりの海外遠征に参加させて頂き、高体連テニス部・読売新聞社そして全行程にサポート頂いた日本旅行の皆様へ深く感謝申し上げます。

さて、男子監督の大役を仰せつかった者として、日本男子チームの勝利と健闘を約束するところでありましたが、試合結果の方は、課題を多く持ちかえることとなりました。

その一つに技術面で、相手サーブ・リターンのスピード・パワー・コントロールの違いは試合内容に多大な影響を与えており、改めてこれらのショットの日頃の練習を工夫・研究しなければならないことを痛感させられました。

また、豪州選手の『内面のレベルの高さ』についても考えさせられました。例えば、試合中どんなにリードしても、されても、またロングゲームになっても集中力の低下が見られないことです。これは、本人たちが日頃から意識してきたトレーニングの結果であると思われます。

このように、テニスの勝負にかかわる大事な部分に差が見受けられますが、何よりも、私指導者自身ももっとテニスをよく知り、勝つための最善の方法を追求し見いだすために必死でなければならないことを強く反省させられました。

一方、遠征全体を通して選手たちに感心したことは、お互いにチームワークを乱さぬように心がけ、その行動も模範的なものであったことです。また、負けた選手も時間の許すかぎり相手選手にチャレンジマッチを意欲的に挑むなど、「夏に向けての自分のテニス」というテーマを各自がもって戦っていました。その姿に、選手たちの平素のテニスに対する取り組みの高さと、各学校の先生方の指導力に感心させられました。

今、帰りの飛行機でこのレポートを書いているところです。この遠征をいろいろと振り返って思うことは、やはり海外遠征は生徒たちにとって大きな思い出と有意義な体験になるということです。そして、日本代表としての対抗戦は、彼らが大変エキサイトさせるということです。



私が来年の監督にアドバイスさせて頂くならば、この二つをより充実したものにさせるならば、今遠征の目的の向上、さらには、高校テニス界発展の企画となりうるものだと思います。

最後に、豪州遠征に参加された皆様方の今後のご活躍とご健康をお祈りして挨拶とさせていただきます。

## 「南十字星に祈る」

女子監督 沢野 唯志

私は今この報告集を編集しながら、今回のオーストラリア遠征を振り返っています。そして、快い充足感を味わっています。

結団式で古賀団長は「全国10万人の高体連テニス部員の代表としての誇りと自覚を持った行動を期待する。また、オーストラリアの選手との交流も深めてほしい。」と挨拶されました。選手達はその期待に充分応えたと思います。個性豊かな選手達は、チームとなった時に大きな力を発揮しました。

山形キャプテンと小林選手を中心とする日本選抜チームは自分のスタイルを貫き、勝利に対する集中力を最後まで持続させました。その技術と精神力は国際舞台でも十分に通用することを証明したのではないかと思います。

一方、オーストラリア選手の、自分の長所を信じて伸び伸びとプレーする姿にも感動しました。どのような状況にあっても決してあきらめない・手を抜かないという基本的なことが身につけており、テニスをする楽しさが全身に満ちあふれていました。テニスが国民に根付いたスポーツとなっている所以ではないかと考えさせられました。

また、地元オーストラリアテニス協会の真摯な姿勢にも心を打たれました。開会式・歓迎レセプション・閉会式というセレモニーはもとより、出場選手に対する気配りの行き届いた厳しい指導に、この対抗交流戦を成功させようという並々ならぬ意気込みを感じました。

国際交流に関しても成果をあげたと思います。片言の英語と日本語でコミュニケーションをはかる姿は微笑ましくも、頼もしくもありました。「ジャンケンポン」をゴールドコーストに流行させた河村添乗員の功績は偉大なものがあります。

あの満天の星の中で輝いていた「南十字星」に思いをはせ、日本・オーストラリア選手団の健闘を祈ります。

最後になりましたが、大所高所から今回の遠征を導いて頂いた古賀団長、企画・渉外の任を精力的に担当された宮浦・馬瀬副団長を初めとする全国高体連テニス部、総合的な視野からアドバイスを頂いた読売新聞の諸角氏、寝食を忘れて奔走された日本旅行河村氏・上田氏に心からお礼申し上げます。

# SCORE

5月 9日

## 練習試合

### 女子 ホープアイランドテニスコート(5面)

山形	生夏	8 - 5	Shanon	Golds
小林	佳子	8 - 6	Bojana	Bobusic
尾崎	真衣加	8 - 2	Jade	Ooi
伊藤	和沙	8 - 9	Slauren	Cheung
宮本	絵梨香	4 - 8	Casey	Dellacqus
柚木崎	みなみ	5 - 8	Rebecca	Pike
竹本	みのり	8 - 4	Gabrielle	Baker
米山	咲	2 - 8	Samansa	Stosur
山形	生夏	6 - 8	Bojana	Bobusic
小林	佳子	8 - 4	Shanon	Golds
竹本	みのり	2 - 6	Casey	Dellacqus

### 男子 サンクチュアリコープテニスコート(7面)

添田	豪	8 - 2	Marcus	Walker
権	東洙	8 - 3	Tom	Downs
酒井	祐樹	6 - 8	Yuki	Suga
藪中	伸也	1 - 8	Robert	Smeets
安田	智昭	8 - 6	Craig	Owers
鳥屋	太希	8 - 6	Nick	Harris
緒方	宏樹	0 - 8	O'neil	
清水	友弘	1 - 8	Mark	Kimmich
渡辺	健	5 - 8	Robert	Smeets
鳥屋	太希	8 - 1	Tristan	Young
清水	友弘	4 - 8	Nick	Harris
藪中	伸也	6 - 6	O'neil	
権	東洙	2 - 2	Yuki	Suga
酒井	祐樹	1 - 3	Tom	Downs

5月10日

## 公式試合

女子 ホープアイランドテニスコート(5面)

### シングルス

山形	生夏	1 - 6 4 - 6	Samansa Stosur
小林	佳子	3 - 6 6 - 0 (7 - 4)	Rebecca Pike
尾崎	真衣加	6 - 3 4 - 6 (8 - 6)	Slauren Cheung
伊藤	和沙	3 - 6 3 - 6	Shanon Golds
宮本	絵梨香	7 - 6 3 - 6 (4 - 7)	Gabrielle Baker
柚木崎	みなみ	6 - 4 7 - 5	Casey Dellacqus
竹本	みのり	2 - 6 6 - 4 (7 - 3)	Jade Ooi
米山	咲	3 - 6 2 - 6	Bojana Bobusic

### ダブルス

尾崎	真衣加	1 - 6	Samansa Stosur
竹本	みのり	1 - 6	Rebecca Pike
小林	佳子	6 - 4	Slauren Cheung
柚木崎	みなみ	6 - 3	Casey Dellacqus
山形	生夏	6 - 3	Gabrielle Baker
伊藤	和沙	6 - 2	Jade Ooi
宮本	絵梨香	6 - 4	Bojana Bobusic
米山	咲	3 - 6 (7 - 4)	Shanon Golds



### オーストラリア女子選手

オーストラリア18歳以下チャンピオン  
を初め、オーストラリア全土から優秀な選  
手が集まった。

男子 サンクチュアリコープテニスコート (7面)

公式試合

シングルス

添田	豪	1 - 6 4 - 6	Mark	Kimmich
権	東洙	1 - 6 2 - 6	O'neil	
酒井	祐樹	6 - 7 6 - 3 (6 - 8)	Nick	Harris
藪中	伸也	6 - 4 3 - 6 (0 - 8)	Craig	Owers
安田	智昭	0 - 6 2 - 6	Robert	Smeets
鳥屋	太希	0 - 6 1 - 6	Yuki	Suga
緒方	宏樹	2 - 6 2 - 6	Tom	Downs
清水	友弘	2 - 6 0 - 6	Marcus	Walker
渡辺	健	7 - 5 6 - 2	Tristan	Young
緒方	宏樹	5 - 7 2 - 6	Tristan	Young

ダブルス

添田	豪	3 - 6	Mark	Kimmich
権	東洙	4 - 6	O'neil	
酒井	祐樹	6 - 3	Nick	Harris
渡辺	健	6 - 7 (7 - 5)	Craig	Owers
安田	智昭	1 - 6	Robert	Smeet
藪中	伸也	0 - 6	Yuki	Suga
清水	友弘	4 - 6	Tom	Downs
鳥屋	太希	6 - 7	Marcus	Walker

練習試合

渡辺	健	8 - 9	Yuki	Suga
権	東洙	8 - 0	Nick	Harris
鳥屋	太希	2 - 8	O'neil	
添田	豪	8 - 4	Craig	Owers
安田	智昭	5 - 8	Tom	Downs
酒井	祐樹	8 - 4	Marcus	Walker
緒方	宏樹	3 - 8	Robert	Smeet
清水	友弘	4 - 8	Tristan	Young

5月11日

# 公式試合

女子 ホープアイランドテニスコート(5面)

## シングルス

山形	生夏	4 - 6 3 - 6	Casey	Dellacqus
小林	佳子	3 - 6 4 - 6	Samansa	Stosur
尾崎	真衣加	4 - 6 3 - 6	Rebecca	Pike
伊藤	和沙	6 - 3 6 - 1	Slauren	Cheung
宮本	絵梨香	6 - 3 4 - 6 (1 - 7)	Bojana	Bobusic
柚木崎	みなみ	2 - 6 4 - 6	Gabrielle	Baker
竹本	みのり	6 - 1 4 - 6 (9 - 7)	Shanon	Golds
米山	咲	6 - 4 6 - 2	Jade	Ooi

## ダブルス

山形	生夏	6 - 2	Samansa	Stosur
小林	佳子	6 - 4	Slauren	Cheung
尾崎	真衣加	6 - 4	Rebecca	Pike
柚木崎	みなみ	6 - 3	Gabrielle	Baker
竹本	みのり	6 - 4	Casey	Dellacqus
伊藤	和沙	4 - 6 (7 - 4)	Bojana	Bobusic
宮本	絵梨香	6 - 4	Jade	Ooi
米山	咲	3 - 6 (7 - 5)	Shanon	Golds



## 表彰者

(男子)

優秀選手	渡辺	健
敢闘選手	添田 酒井	豪 祐樹

(女子)

優秀選手	小林	佳子
敢闘選手	山形	生夏



男子 サンクチュアリコープテニスコート(7面)

公式試合

シングルス

添田 豪	4 - 6 4 - 6	O'neil Mark	Kimmich
権 東洙	6 - 2 6 - 1	Nick	Harris
酒井 祐樹	6 - 7 3 - 6	Craig	Owers
藪中 伸也	6 - 2 6 - 3	Tristan	Young
安田 智昭	5 - 7 3 - 6	Yuki	Suga
鳥屋 太希	0 - 6 1 - 6	Robert	Smeets
緒方 宏樹	6 - 4 1 - 6 0 - 6	Sulemen	
清水 友弘	4 - 6 2 - 6	Tom	Downs
渡辺 健	6 - 7 6 - 2 6 - 4	Marcus	Walker
鳥屋 太希	1 - 6 1 - 6	Sulemen	

ダブルス

添田 豪 酒井 祐樹	6 - 7 7 - 6 6 - 3	Nick O'neil	Harris
権 東洙 渡辺 健	5 - 7 6 - 3 1 - 6	Robert Craig	Smeet Owers
安田 智昭 清水 友弘	4 - 6 5 - 7	Marcus Yuki	Walker Suga
藪中 伸也 緒方 宏樹	4 - 6 6 - 4 2 - 6	Tom Mark	Downs Kimmich

男子会場

「サンクチュアリーコープテニスコート」  
美しい池に囲まれ、鳥たちが遊びに来る。



5月12日

## 練習試合

女子 ホープアイランドテニスコート(5面)

山形	生夏	8 - 9	Samansa	Stosur
小林	佳子	8 - 6	Jade	Ooi
尾崎	真衣加	8 - 2	Slauren	Cheung
伊藤	和沙	4 - 8	Casey	Dellacqus
宮本	絵梨香	5 - 4	Gabrielle	Baker
柚木崎	みなみ	4 - 8	Rebecca	Pike
竹本	みのり	8 - 4	Shanon	Golds
米山	咲	8 - 1	Bojana	Bobusic
柚木崎	みなみ	4 - 3	Casey	Dellacqu
伊藤	和沙	5 - 1	Jade	Ooi

男子 サンクチュアリコープテニスコート(7面)

添田	豪	5 - 8	Craig	Owers
権	東洙	8 - 6	Yuki	Suga
酒井	祐樹	4 - 8	Robert	Smeets
藪中	伸也	4 - 8	Tom	Downs
安田	智昭	3 - 8	Nick	Harris
鳥屋	太希	4 - 8	Marcus	Walker
緒方	宏樹	2 - 8	Cristian	
清水	友弘	7 - 6	Sulemen	
渡辺	健	3 - 8	Robert	Smeets
権	東洙	4 - 3	Craig	Owers
酒井	祐樹	4 - 8	O'neil	
緒方	宏樹	2 - 5	Yuki	



### 閉会式

オーストラリア代表から感謝の意と、  
来年度への期待が述べられた。

# 試合を振り返って

山形 生夏（仁愛女子高等学校）



4日間試合をして自分なりに色々な壁にあたりました。「頑張ろう」という気持ちが空回りして勝ち負けにこだわってしまい、自分のテニスをするのを忘れ、すぐミスをしてしまう自分に腹が立ってしかたありませんでした。何をしてもうまくいかず、試合中、泣きたくなるほど、悩みました。しかし4日目にはこれでテニスをするのも最後ということもあり、力まずに高いところでボールを打つことだけを考えて試合に臨みました。結局負けましたが、4日間試合をして一番自分のテニスがまともにできた日だったと思います。

ダブルスも自分では信じられないほどボレーの調子が良く、伊藤さんや小林さんの足を引っぱらなくて本当によかったです。

小林 佳子（柳川高等学校）

私は、オーストラリアで試合をするのは、3度目で、気合い充分で全ての試合に入りました。最初の試合は、すごく緊張しましたが、次の試合に進むにつれて、思いっきりできました。今回の成績はシングル4勝1敗、ダブルスは2勝でした。「思いっきりやろう」これが今回の目標で、声を出し、自分を盛り上げてできたことが、よかったです。

ダブルスは2勝したことで、おおきな自信になりました。今回の試合で身についたことは、「あきらまない、必ずチャンスはくる」ということです。また、トロフィーも頂いて、本当に自信になりました。まだまだ課題はたくさんありますが、この試合で学んだ事を生かしてインターハイ予選にのぞみたいです。



尾崎真衣加（夙川学院高等学校）

日本の選手と外国の選手とは、やはり打つボールの重さが違うと思いました。早く構えなければ遅れるし、フットワークもすごく使いました。

一番はサーブが全然違うような気がしました。もっともっと強くしていきたいです。

伊藤 和沙（園田学園高等学校）

移動や時間調整などでテニスをするまでに、疲れてしまう状況の中で100%の力が出せたとはいえませんが、勝てるように努力し、いつも通りプレーができるように心がけました。

自分にとって必要なことがあるので日本に帰ったらまたしっかりトレーニングが必要だと思いました。

# 試合を振り返って

---

宮本絵梨香（夙川学院高等学校）

ほとんどの試合がタイブレークまでいき、結果的に負けた試合多かったので、すごく悔しかったです。大事なポイントでもミスをしたり弱気になった面もあったのでそれを課題にして夏までに直していきたいと思いました。

柚木崎みなみ（柳川高等学校）



今回この遠征で試合をして、良い経験ができたと思いました。私は、外国人と試合をしたのが初めてでしたし、オーストラリアの選手の試合態度に最初はとまどいました。

みんなサーブが速く、球も重く、すごくやりにくかったです。相手のボールにスピンのかかっているせいで普通に打っているつもりが、すぐネットにかかってしまいました。

ダブルスでは、ペアがいるだけで心強くて、楽しくテニスができました。団体戦ということで、日本人達とも、チームワークがよくなりました。試合は、全部勝てなかったけど、いろいろな人とできて、いろいろなパターンがあって、すごく勉強になりました。

竹本みのり（樟蔭東高等学校）

オーストラリアの人はとても強かったです。初め試合をした時、ボールの速さに目がついていかなくて全然ラリーになりませんでした。試合をしていくにつれて目もなれてきて、ボールが入るようになってきました。私とは全然ちがうと思ったところは、サーブの速さとコースです。とても速くてコースがいいので、リターンを返すのがやっとでした。私もこれからこのようなサーブを打てるように努力していきたいです。

米山 咲（松商学園高等学校）

自分は、いつもテニスの試合では、緊張してしまいましたが、今回は、なぜかのびのび出来た様な気がします。オーストラリアの人達は、日本人よりボールが速かったですが、ミスをしてくれたのでやりやすかったです。今、コートマナーに気をつけているのですが、オーストラリアの人達は、あまりにも感情を表に出すので少し驚きました。内容的には、（勝ち負けもこだわりましたが）とにかく走りまわりました。今後は、もう少し、深くコースの良いボールが打てるようになりたいと思います。



日本・オーストラリア選手  
全員集合



## 試合を振り返って

---



オーストラリア男子チーム

強力なサーブと素晴らしい  
ファイティングスピリット。

安田 智昭（明石城西高等学校）

今回、オーストラリアの人と試合をさしてもらって思った事は、やっぱり、体つきとか、身長が全然違うと思いました。その身長からくりだされるサーブは、スピードとコースがすごく、リターンを返すのにものすごく苦労しました。でも、ストロークでは、けっして負けていなかったと思います。特に、フォアハンドでは普通のラリーでも、相手をおす事もできたし、エースもとれました。

でも僕は、初日1回だけ勝っただけで、後は全部負けてしまいました。やっぱり、僕と違うところは、みんな、ウィニングショットをそれぞれ持っていて、しっかりテニスに形ができていると思いました。僕にはこうして、こうやったらポイントが取れるとかそういうものがないので勝てなかったと思うし、ストロークとサーブがまだまだ安定していないので、これから勝っていくためにも、まずは、そういう所から練習していき、もうすぐある県予選で、今回、オーストラリア遠征に行つて良かったなあと思えるようにしていきたいと思います。

添田 豪（藤沢翔陵高等学校）

オーストラリア選手との試合を振り返って、実際オーストラリアの NO.1 NO.2 の選手は強いというのを本当に実感しました。特に日本人選手と違う点は、サービスとフットワークでした。サービスはとてもパワフルで何種類かのサービスを打つことができ、尚かつコースと深さが良いのでなかなかブレイクすることができませんでした。

ストロークに関しては、あまり差はないと思いました。外国の選手はパワフルで速いボールを打ち、日本人の選手は粘りと安定力を活かしていると思いました。勝負所での集中力は外国の選手が日本人選手を上回っていました。日本人の選手が世界に近づくには、やはりこういう外国の選手とたくさん試合をし、外国の選手のボールに慣れ、良いところを学んでいけば、必ずチャンスはあると思います。

権 東洙（柳川高等学校）

僕は今回オーストラリア選手との試合で5勝3敗2分の結果ができました。試合の前に勝つことを、頭の中に入れて一生懸命がんばりましたが、相手が強くてなかなかうまくいく事はできませんでした。

試合中にどうしたら自分より強い選手に勝つことができるかと考えながら、または、集中力を確かめながら、試合をしました。10試合の中で5勝をして自分ではよくやったと思っています。そして試合が終わった後にオーストラリアの選手にいろいろと教えてもらい、良い勉強にもなりました。今回の試合で本当に良い経験をしたと今も心から思っています。

# 試合を振り返って

---



男子試合会場

サンクチュアリコープテニスコート



酒井 祐樹（足利工大付属高等学校）

試合を振り返ってみて、オーストラリアの人と力の差を感じました。日本人とはパワー、スピード、ボールの重さが全然違い球を返すのがやっとでした。力負けばかりで自分のプレーが思ったようにできなかったのが、すごく悔しかったです。でも強い人と試合が出来たのは、自分にとってすごいプラスになりました。

サーブは速くてコースがいいし、リターンは確実に返してくるし、簡単なコースは全然ないし、本当にすごいと思いました。自分も強い人達のプレーからいいところを盗んで強くなれるように頑張りたいと思います。シングルスで1勝ダブルスで2勝できたのはすごく自信になったので、この経験を生かして頑張りたいと思います。

藪中 伸也（清風高等学校）

今回の遠征の試合を振り返って1番感じたことはパワーの違いでした。特にサーブが何本もエースをきめられてまったくリターンを返すことができませんでした。あとストロークでもパワーでおされてしまいエースをきめられるパターンが何度もありました。だから、もっとサーブの練習が必要だと実感しました。あと集中力が高く大事な場面ではしっかりとポイントを取ってこられたし、自分の集中力も切れたりした部分があったので、勝ちにつながらなかったと思いました。

今回の試合では海外の選手と試合をする機会がなかったので貴重な体験になりました。

鳥屋 太希（県立岐阜商業高等学校）

今回、サンクチュアリコープテニスコートでオーストラリア選手とたくさん試合をして思ったのは、みんな体が大きくて、サーブやストロークなどどれも僕達と比べて力強くて、相手のサービスゲームの時は、スピードとパワーで圧倒されました。そして、オーストラリアの選手は、サービスで相手を苦しめて、僕がリターンを返してもボレーで決められてしまうパターンばかりでした。

日本の選手と戦う時は、だいたいベースラインでのストロークの打ち合いでチャンスボールで決めていくパターンなので、今回僕は、このオーストラリア遠征で選んでいただいて参加できて、向こうの選手と試合が出来て本当にためになったし、これからの課題もたくさんできました。だから、この遠征で学んだたくさんのことを日本へ帰ってテニスはもちろん、普段の生活でも活かしていけるようにしたいです。

そして監督をしてくださった本田先生にも、とても良いアドバイスをいただいてたくさん勉強になりました。それを今後活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

# 試合を振り返って

---

緒方 宏樹（九州国際大付属高等学校）

自分は結局1勝あげられない結果で日本に帰るわけですが、正直悔しい反面、これが自分の実力なんだと思知らされました。試合をした4日間で全国大会常連の人とオーストラリア人との試合を実際目の前で見て、色々な勉強の毎日でした。今回0勝という情けない成績で帰国しますが別に負けたことに関して、後悔はしていません。なぜなら日頃からテニスの考え方や練習の仕方とかをもっとよくして頑張っていけば全国大会に出ている奴に追いつけると感じたからです。

オーストラリアは本当に強かった。いい経験が出来たことが本当にうれしかったです。

清水 友弘（松商学園高等学校）

オーストラリアの選手はレベルが高いと聞いていたけど、実際に試合をしてみてその強さを実感しました。具体的に一番印象に残っているのはサーブです。ものすごく速いし、重いし、コースがいい。それに身長が高いからすごくプレッシャーだった。NO.1のMarkのサーブは特にすごくてさわるのがやっとだった。

そんなサーブに反応して、しっかりリターンする技術はまだ僕にはないし、他にもストロークやボレーなどでももっともってレベルを上げる必要があると強く感じました。

渡辺 健（柳川高等学校）

試合前、体力面やパワー面では向こうの選手より劣るので、精神面、集中力では相手に負けずにやれる自信がありました。でも、今回の相手はパワーはもちろんの事、精神的な部分も自分より勝っていました。特に相手のサーブでポイントとなる場面でのサーブの質、確率が僕と比べて全然違いました。簡単にブレイクはさせてくれませんでした。

今回の試合では特にサービス、リターンの重要性を改めて実感しました。でもストローク戦になるとけっこうポイントも取れたし自分から組み立ててポイントを取りにいけたと思います。

自分の課題を再実感することが出来たし新しい課題も発見できて、とてもいい勉強でした。



男子選手全員集合



## 遠征を終えて



アランデルヒルズカントリー  
日本選手が3泊した。

渡辺 健（柳川高等学校）

最高の環境の中でテニスをするのができ、今回の遠征は本当に自分自身一日一日がとても楽しく充実していました。テニスをしているときはもちろんのこと、それ以外の時にオーストラリアの選手と下手ながらも英語でコミュニケーションを取ることができました。

テニスで学んだことはたくさんありました。一週間は短く感じましたが、今までにない色々な事を経験することができました。高校生活の最高の思い出となりました。

これも、多くの方々のご協力ご支援があったからこそだと思います。本当にありがとうございました。これからもがんばります。

清水 友弘（松商学園高等学校）

試合の多い4日間はとてもいい経験となりました。自分より強い選手を相手に満足のいく試合とそうでない試合がありました。オーストラリアの選手はとてもひたむきで、ガッツもものすごくあり、見習わなければならない点も多くありました。

そして、自分の技術が全然通用しない実力の違いを改めて感じ、これから頑張らねばと思っています。まず、ストロークなど一般的なプレーの安定性の向上とスピード・パワーのアップ、それにサーブのレベルアップなどです。全然勝てませんでした。すごく競った試合も多くあり、追い越すことは可能だと思いました。

この遠征を一つのきっかけとして、これからまた一生懸命頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

緒方 宏樹（九州国際大付属高等学校）

この遠征は自分にとってプラスになったとつくづく思います。自分はテニスと知り合ってから4年半です。それに比べて他の選手は倍以上の経験年数を持っています。全国大会にも出たことはないし、友達もできなくてきつとつらい遠征になると思っていました。しかし、話したり一緒に生活していくうちに皆とても良くなってくれ、楽しい日々でした。

今度皆と会えるのは全国大会しかありませんから、目標はインターハイ・全日本ジュニアに出場し、実際に試合で対戦して倒せるようになることです。柳川という厚い壁がありますが、強い選手に勝ちたいから福岡に残ったと言いたいと思います。

オーストラリア遠征で学んだことはたくさんあります。それを一つでも多く試合に生かせるように練習していきたいです。この遠征メンバーに選んでいただいた全国高体連テニス部に心から感謝しています。本当にありがとうございました。



## 遠征を終えて

鳥屋 太希（県立岐阜商業高等学校）

僕はこの遠征に参加させていただくことでずっと頭の中に入れておいたことがあります。それは、この遠征は僕の学校の県岐商のテニス部のみんなで勝ち取った選抜大会であって、みんなの力でベスト8に入り、その代表で自分が行くということです。ですから、代表として、部員の分まで頑張ることを決めていました。

この遠征に選んでくださった高体連の先生方や読売新聞の方々、一週間色々とお世話してくださった河村さんや上田さん、これらの方々のお陰でこのようなすばらしい経験ができたんだということを実感しました。

ゴールドコーストではとてもきれいで広くて、素晴らしいホテルに泊まることができましたし、とても良い環境の所でテニスもできました。通訳をしてくださったコウコさんにも、本当に感謝しています。

シドニーでは、夜は少し怖かったですが、すごくきれいな町で買い物もできたし動物園でコアラやカンガルーなども見ることができ、本当に楽しかったです。

これだけの方々にお世話になったからには、日本に帰ってから何に対しても今回のオーストラリア遠征での経験を活かしていきたいと思います。一週間ありがとうございました。



藪中 伸也（清風高等学校）

この遠征では色々なことを学び、勉強になりました。試合では今まで外国の選手と対戦するチャンスがあまりなかったので、今回の試合ではたくさんことを学び考えさせられました。特に、パワー（筋力）が全然足りないし、集中力をもっと上げていかなければならないと思いました。

今回は試合だけでなく、お互いの交流も深まったと思います。コートを離ればお互い話をしたり、テニス以外の面でも良い勉強になりました。

また、シドニー観光は、テニスばかり考えていたので息抜きになってよかったです。今回の遠征の教訓を活かしてこれから頑張っていきたいです。

酒井 祐樹（足利工大付属高等学校）



このような遠征のメンバーに選んでいただき、本当にありがとうございました。今までは海外に行くチャンスもあまりなく、とても良い経験がすることができました。

一週間という短い間でしたが、たくさんことを学ぶことができました。ここでもっとたくさんことを知りたかったし、学びたかったです。時間の経つのがすごく速く感じてもっと楽しみたいという気持ちが今も強いです。もう帰らなければならないのが残念です。

このような遠征は今年もうラストだと思うので、充分楽しんでよかったです。この一週間お世話になった皆様に感謝しています。ありがとうございました。この経験を活かして頑張りたいと思います。本当に一週間ありがとうございました。

## 遠征を終えて

権 東洙（柳川高等学校）

今回のオーストラリアの遠征は僕にとっては本当に良い勉強になりました。特に精神力や自分の考え方が良くなりました。生活力も強くなり、特に、テニスに対しても一段上に行くことができたと思っています。

今回の遠征のお陰でいつもとは違う考え方ができました。これから、もっと強くなるために頑張ります。本当に、色々な方々や先生方のお陰だと思えます。感謝の気持ちを忘れずに、これからも一生懸命頑張っていきたいと思えます。

添田 豪（藤沢翔陵高等学校）

遠征を終えて振り返ってみると、本当に充実していてとても良くしていただいたと思っています。テニスコートでのお弁当の準備や水やフルーツなど本当にお世話になったと実感しています。特に宿泊場所のアランデルヒルズカントリーは豪華で何でもそろっていて感激しました。

テニスの方はオーストラリアの強い選手と試合することができ、今後生きる経験となりました。そして、オーストラリアの選手と話をしたりして、とても良い交流ができ楽しかったです。

そしてお世話になった方々が僕達のことを考えてくださり、意見も聞いていただきました。とても優しく接していただき、嬉しかったです。

最後に、このような遠征の機会を与えてくださった高体連の先生方に感謝します。ありがとうございました。

安田 智昭（明石城西高等学校）

このオーストラリア遠征で僕は本当に良い経験ができたと思えます。これからの自分の課題も見つかったし、それに自信もつきました。でも忘れてならないのは、この遠征に選ばれたのも、自分一人の力ではなく、城西のメンバーや部員全員が一丸となり頑張ってくれたお陰で僕が今ここにいるわけで、大きな責任があると思えます。学校に帰ったら、みんなに経験した全てのことを教えていき、これからのインターハイや後輩のためにも活かしていきたいと思えます。

最後になりましたが、今回オーストラリアでお世話になった先生方や読売新聞社、旅行社の方々のお陰でとても素晴らしく楽しい遠征になったと思えます。ゴールドコーストやシドニーではテニスはもちろんのこと、その他でも先生方の気配りで色々な経験をさせていただきました。特に、最後の夕食の時には、誕生日を祝っていただき、18年間生きてきた中で最高の思い出となりました。これほど僕達のことを考えていただき、とても感謝しています。

頼りないキャプテンでしたが、キャプテンに選んでいただいたことや、遠征に選んでいただいた先生方本当にありがとうございました。これからテニスをしていく上でこの遠征を無駄にしないようにします。



この後、安田キャプテンの誕生日を祝った。

## 遠征を終えて



シドニー港

米山 咲（松商学園高等学校）

今回の遠征は知り合いの人がほとんどいませんでしたが、今では全員と仲良くなりました。それから単語口調ですが、オーストラリアの人達ともコミュニケーションがとれたので嬉しかったです。自分がこのように楽しめたのも先生方を初め、多くの方々のお陰です。日本に帰ったら、このオーストラリアで学んだことを地元の学校の人達に伝えたいです。本当にありがとうございました。

竹本みのり（樟蔭東高等学校）

遠征に行く前から私はオーストラリアの人と自分の違うところを見つけようと思っていました。そして違うところは精神力です。私は一球ミスすると後々に響いて良いプレーができなくなる事がありますが、オーストラリアの人はすぐ切り替えて次のポイントに集中していました。私も見習いたいと思います。遠征を通して私はは色々なことを学びましたが、日本に帰ってもこのことを忘れずに日々練習していきたいと思っています。ありがとうございました。

柚木崎みなみ（柳川高等学校）

ゴールドコーストは落ち着ける町で、のんびり過ごすことができました。日本人の選手は皆仲が良く、楽しく生活できました。初めての外国への遠征でこんなに良い思い出ができ、感謝しています。一週間という短い期間でしたが充実していました。日本にはない素晴らしい環境、愛嬌のある人々、見る物すべてに興味がありました。オーストラリアの人とも仲良くなれたし、写真もたくさん撮り本当に良い思い出となりました。今回このような機会を与えてくださった方々、ありがとうございました。また来年来れるように、これから一年精一杯頑張ります。今回は本当にありがとうございました。

宮本絵梨香（夙川学院高等学校）

いつもと違う環境でまた違う人達と試合をさせていただきました。緊張はもちろんありましたが、ハードコートという意識もあり、暑さが厳しく感じました。最後にオーストラリアの大都市シドニーで観光もできて嬉しかったです。また今回一緒に行った人達とも仲良くなり、また海外の人とも仲良くなれたので自分にとってとてもプラスになる遠征になりました。ありがとうございました。



食事風景



カンガルーと

## 遠征を終えて

伊藤 和沙（園田学園高等学校）

今回の遠征では観光ができ、食事もしめました。一週間が短く感じました。印象に残ったことは、オーストラリアは日本に較べてテニスが盛んな国だということです。テレビでもよく放送されているのを目にしました。

今回の遠征では課題がたくさん見つかりましたので、日本に帰ったらしっかり練習しなければならないと思いました。先生方にはお世話になり、色々な方と会えて良かったと思っています。ありがとうございました。

尾崎真衣加（夙川学院高等学校）

今回の遠征で学んだことは、ミスをおそれずに積極的にゲームすることです。また、自分にはもっとフィットネストレーニングをする必要があると思いました。



第23回全国選抜高校テニス大会

オーストラリア遠征

# 報 告 集

2001年5月8日～5月14日

全国高等学校体育連盟テニス部